

## 2023年度3級審判員昇級試験筆記問題(2023.5.13)

A. 次の( 1 )から( 30 )にあてはまる言葉を競技規則通りに記入しなさい。

### 1. フィールドのマーキング

競技のフィールドは( 1 )で、危険でなく、連続したラインでマークしなければならない。  
エリアの境界線を示すラインは、そのエリアの( 2 )である。

長い方の2本の境界線をタッチライン、短い方の2本の境界線をゴールラインという。2本のタッチラインの midpoint を結ぶ( 3 )で競技のフィールドを半分に分ける。( 3 )の中央に( 4 )をしるす。これを中心に半径( 5 )mのサークルを描く。

すべてのラインの幅は、同じで、( 6 )cmを超えてはならない。ゴールラインの幅は、ゴールポストおよびクロスバーの厚さと( 7 )でなければならない。

2. プレーに関する事実についての主審の( 8 )は、得点となったかどうか、または試合結果を含め( 9 )である。主審およびその他すべての審判員の決定は、常にリスペクトされなければならない。

### 3. 主審の職権と任務

主審は

- ・( 10 )を施行する。
- ・他の審判員と協力して試合を( 11 )する。
- ・( 12 )を務め、また試合の記録を取り、関係機関に審判報告書を提出する報告書には、試合前、試合中または試合後の懲戒処置やその他の出来事に関する情報が含まれる。
- ・プレーの( 13 )を管理し合図する。

負傷

- ・競技者の負傷が軽い場合、ボールが( 14 )になるまでプレーを続けさせる。
- ・競技者が( 15 )を負った場合、プレーを停止し、確実にその競技者を競技のフィールドから( 16 )させる。負傷した競技者が競技のフィールド内で( 17 )を受けることはできず、プレーが再開された後に復帰する。

4. 競技者が次の反則のいずれかを相手競技者に対して( 18 )に、無謀に、または( 19 )な力で行ったと主審が判断した場合、直接フリーキックが与えられる

- ・( 20 )する
- ・( 21 )
- ・ける、またはけろうとする
- ・打つ、または、打とうとする(頭突きを含む)
- ・( 22 )する、またはチャレンジする
- ・つまずかせる、またはつまずかせようとする

5. 競技者は、次の場合、警告される。

- ・プレーの( 23 )を遅らせる。
- ・言葉または行動により( 24 )を示す。

- ・主審の（ 25 ）を得ず、競技のフィールドに入る、復帰する、または（ 26 ）に競技のフィールドから離れる。
- ・（ 27 ）、コーナーキック、フリーキック、またはスローインでプレーが再開されるときに規定の（ 28 ）を守らない。
- ・繰り返し（ 29 ）する。
- ・（ 30 ）行為を行う。

B. 次の 31～50 は、サッカーの競技規則に関する文章である。それぞれの文章の内容が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。

31. 人工芝の表面の色は、緑でなければならない。（ラインを除く）
32. 交代されようとした競技者がフィールドを離れることを拒んだ場合、競技はそのまま続けられる。
33. 試合中、ボールは主審の承認を得ずに交換できない。
34. コーナーフラッグポストの高さは 1.5m を超えてはいけない。
35. キックオフの際、すべての競技者はフィールドの自分たちのハーフ内にいなければならない。
36. コイントスに勝ったチームが、前半攻めるゴールを選ぶかキックオフを行うかを選択することができる。
37. ドロップボールを受ける競技者以外のすべての競技者は、ボールがインプレーになるまで 2m 以上ボールから離れていなければならない。
38. ハーフタイム中に競技者が主審の判定に異議を唱えたため警告を与えた。
39. 試合中にフィールド内に他のボールが転がって進入してきたが、プレーに影響のない場所であったため、プレーを続けさせた。
40. プレー中、高く上げた足が相手競技者に接触したためプレーを停止し、相手チームの間接フリーキックで試合を再開した。
41. プレー中にボールが主審に当たり相手チームに渡ってしまったが、そのままプレーを続けさせた。
42. ペナルティーエリア内で攻撃側競技者がボールを保持しているときに主審がプレーを止めドロップボールで再開するときは、守備側チームのゴールキーパーにボールをドロップする。
43. オフサイドポジションにいる競技者が味方競技者のゴールキックを直接受けたのでオフサイドと判定した。
44. 直接フリーキックとなる反則を「無謀に」犯したと主審が判断した場合、その競技者には退場が命じられなければならない。
45. フリーキックが行われるときに守備側チームが 2 人以上の「壁」を作った場合、すべての攻撃側チームの競技者はボールがインプレーになるまで「壁」から 1 m 以上離れていなければならない。
46. 直接フリーキックが直接自分のゴールに入ってしまったため、オウンゴールで相手の得点を認めた。
47. スローインが行われるとき、相手競技者は 1 m 以上離れなければならない。
48. ペナルティーキックを行う競技者はボールを前方にけらなければならない。
49. ゴールキックをかけたが、ペナルティーエリアを出ることなく、味方ゴールラインを出てしまったので、相手チームにコーナーキックを与えた。
50. チーム役員が意図的にテクニカルエリアを出て審判員に対して異議を示したため、退場を命じた。